

≫≫ お知らせ

クラウドファンディング 経過報告

先月号でお知らせした、インターネットのクラウドファンディング「READYFOR? (レディフォー)」を利用した当館の支援募集は、9月3日のスタートから23日間で目標額の200万円に達し、現在目標額の150% (300万) を超えています。インターネットの力に驚くばかりです。

プロジェクトページの中で当館の活動の紹介をしていますが、この図書館の意義を認めてご支援くださった方々に心より感謝申し上げます。職員一同、さらに役立つ図書館を目指して仕事に励んでいこうと、気を引き締めております。

また、「銀座経済新聞」(9月25日配信)、「Yahoo!ニュース」(9月25日配信)、「朝日新聞」(9月26日夕刊掲載)、「東京新聞」(10月3日朝刊掲載)、「TBS Nスタ」(10月2日放送)など、各メディアにも取り上げていただき、図書館の存在を多くの方に知ってもらう機会をいただきました。

プロジェクトのスポンサー募集の期間は10月23日までです。

まだまだ支援を募集しておりますので、今後ともよろしく
お願い申し上げます。

プロジェクトページはこちら ↓

<https://readyfor.jp/projects/ootanitosyokan>



≫≫ 資料出品・展示協力

日比谷図書文化館『市川團十郎 荒事の世界』展に展示出品

昨年(平成23年)11月、オープンした千代田区立日比谷図書文化館(日比谷公園内)1階展示室で、平成24年9月29日から11月28日まで『市川團十郎 荒事の世界』展が開催されています。当館からは、川尻清潭自筆原稿『歌舞伎十八番 不破』など5点を展示出品しています。

旧・都立日比谷図書館を改修してリニューアルオープンした複合施設日比谷図書文化館の“探検”をかねてお出かけください。

日比谷図書文化館公式サイト：<http://hibiyal.jp/hibiya/index.html>

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『天地明察』	○	○	○		○
『劇場版 TIGER & BUNNY -The Beginning-』	○	○	○		
『シネマ歌舞伎 籠釣瓶花街酔醒』	○		○		
『劇場版ミューズの鏡 マイプリティドール』	○				

■ 映画プログラム ■

『白雪姫と鏡の女王』 『ロック・オブ・エイジズ』 『モンスター・ホテル』
 『アウトレイジ ビヨンド』 『バイオハザードV：リトリビューション』

■ 書籍 ■

棚に配架された
モノロー関連書籍



先月より引き続き、マリリン・モンロー関連書籍をご紹介します。

- | | | |
|------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------|
| 『帰らざる金髪 マリリン・モンロー写真展 記念写真集』 | 東急百貨店宣伝企画 (企画) | 東急百貨店 |
| 『風の中のキャンドル マリリン・モンロー』 | エルトン・ジョン+バーニー・トーピン (編著) | 同朋舎出版 |
| 『究極のマリリン・モンロー』 | 井上篤夫 (編著) | ソフトバンククリエイティブ |
| 『さよなら、ノーマ・ジーン』 | クラウドピア・ネクロ (著)、田邊玲子 (訳) | 三修社 |
| 『大リーガーの愛と孤高 ジョー・ディマジオとマリリン・モンロー』 | ジョセフ・ダーソー (著)、宮川毅 (訳) | ベースボール・マガジン社 |
| 『誰にも内緒のマリリン・モンロー 秘蔵写真集』 | 河村美紀 (訳) | シンコー・ミュージック |
| 『追憶マリリン・モンロー 20世紀最後の証言』 | 井上篤夫 (著) | 集英社 |
| 『ディマジオとモンロー 運命を決めた日本での二十四日間』 | 佐山和夫 (著) | 河出書房新社 |
| 『なぜノーマ・ジーンはマリリン・モンローを殺したか』 | ルーシー・フリーマン (著)、屋代通子 (訳) | 扶桑社 |
| 『二十世紀の千人第9巻 スターからアイドルへ スポーツ・芸能・モード』 | | 朝日新聞社 |
| 『裸のハリウッド女優たち 外国映画100年トップスター衝撃写真集』 | ギルバート・ギブソン (文)、植田尚子 (訳+構成) | 近代映画社 |
| 『ブロンド マリリン・モンローの生涯』 | ジョイス・C・オーツ (著)、古屋美登里 (訳) | 講談社 |
| 『マリリンの夏』 | ジョック・キャロル (写真+文)、小倉真理 (訳) | イースト・プレス |
| 『マリリンは生きていた』 | ジョージ・バーノウ (著)、岡山徹 (訳) | 東京書籍 |
| 『Marilyn もうひとりのマリリン・モンロー』 | バート・スターン (写真+文)、大沢類 (訳) | 同朋舎出版 |
| 『マリリン・モンロー暗殺指令』 | ドナルド・H.ウルフ (著)、戸根由紀恵 (訳) | 同朋舎 |
| 『マリリン・モンロー 消えていった世界の恋人 シネアルバム1』 | 淀川長治 (文) | 芳賀書店 |
| 『マリリン・モンロー最後の真実』 | ドナルド・スポト (著)、小沢瑞穂+真崎義博 (共訳) | 光文社 |
| 『マリリン・モンロー/最後のポーズ バート・スターン写真集』 | バート・スターン (写真+文)、大沢類 (訳) | リプロポート |
| 『Marilyn Monroe Sexy & Cute』 | | 近代映画社 |
| 『マリリン・モンロー大研究』 | まつもとよしお (著) | 文芸社 |
| 『マリリン・モンローという女』 | 藤本ひとみ (著) | 角川書店 |
| 『マリリン・モンローの男達』 | ジェイン・エレン・ウェイン (著)、戸根由紀恵 (訳) | 近代文芸社 |
| 『マリリン・モンローの真実』 | アンソニー・サマーズ (著)、中田耕治 (訳) | 扶桑社 |
| 『マリリン・モンロー計画』 | 典厩五郎 (著) | 祥伝社 |
| 『マリリン・モンロー わが妹、マリリン』 | バーニス・ベイカー・ミラクル+モナ・ラエ・ミラクル (著)、大沢満理子 (訳) | 共同プレス |
| 『Marilyn Monroe マリリン・モンロー写真集 プレイボーイ特別編集』 | | 集英社 |
| 『モンロー伝説 ただ愛が欲しいだけ』 | 森園みるく (著)、桐野夏生 (原作) | 祥伝社 |
| 『モンローの悲鳴 マリリン・モンロー写真集』 | バート・スターン (撮影)、リウ・ミセキ (編) | リプロポート |
| 『ヤング・マリリン』 | ジェームズ・ハスピール (著)、横須賀零 (訳) | 同朋舎出版 |
| 『NORMA JEANE ノーマ・ジーン写真集』 | アンドレ・ド・ディーンズ (撮影) | ぶんか社 |

(新規登録資料案内 続き)

■ 松竹系 9月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『菅原伝授手習鑑 寺子屋』	○	○	○	○
	『天衣紛上野初花 河内山』	○	○		
	『時今也桔梗旗揚』	○	○		
	『京鹿子娘道成寺 鐘供養より押戻しまで』	○	○		
日生劇場	『少年たち Jail in the Sky』	○		○	○
松竹座(大阪)	『妹背山婦女庭訓 三笠山御殿』	○		○	○
	『俄獅子』				
	『団子売』				
	『瞼の母』	○			
	『女暫』	○			
	『六代目中村勘九郎襲名披露口上』				
	『勘九郎六変化 雨乞狐』	○			
『雁のたより』	○				
南座(京都)	山田洋次の軌跡～フィルムよ、さらば～			○	○
	市川海老蔵 古典への誘い			○	○
地方巡業(西コース)	『歌舞伎のみかた』	○		○	
	『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○			
	『女伊達』				

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

■ 他社公演資料 ■

青山円形劇場	8月	『叔母との旅』プログラム
		『オリビアを聴きながら』プログラム
青山劇場	8月	『ミュージカル ミス・サイゴン』プログラム
赤坂ACTシアター	8月	『舞台 十三人の刺客』プログラム
大阪新歌舞伎座	9月	『芸能生活五十周年記念 舟木一夫特別公演』プログラム
金沢市の犀川緑地特設会場	8月	『金澤河原歌舞伎 十八代目中村勘三郎監修』プログラム
紀伊國屋ホール	8月	『怪談牡丹燈籠』プログラム
国立劇場小劇場	8月	『第十四回 音の会』プログラム
		『花形・名作舞踊鑑賞会』プログラム
		『第十八回稚魚の会・歌舞伎会合同公演』プログラム
国立劇場大劇場	8月	『大感謝祭！ 亀治郎の会さよなら公演』プログラム、台本
国立文楽劇場	8月	『第二十二回上方歌舞伎会』プログラム
ザ・スズナリ	8月	『シュペリオール・ドーナツ』プログラム
シアタークリエ	9月	『DADDY LONG LEGS』プログラム
シアターグリーンBIG TREE THEATER	9月	『人形の家』プログラム
シアターコクーン	8月	『ふくすけ』プログラム
渋谷区文化総合センター大和田さくらホール	9月	『蟹工船』プログラム
下北沢駅前劇場	9月	『ナイアガラ』プログラム
自由劇場(四季)	8月	『桃次郎の冒険』プログラム
鍬仙会能楽研修所	8月	『歌舞伎役者能に挑む 中村梅枝・中村萬太郎』プログラム
東京芸術劇場シアターウエスト	9月	『東京福袋』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	9月	『無差別』プログラム
博多座	9月	『北島三郎特別公演』プログラム、ポスター
パルコ劇場	8月	『三谷文楽 其礼成心中』プログラム、床本

(新規登録資料案内 他社公演資料 続き)

本多劇場	8月	『鎌塚氏、放り投げる』プログラム 『背水の孤島』プログラム
御園座	9月	『五木ひろし特別公演』プログラム
三越劇場 (日本橋)	8月	『明日の幸福』プログラム 『パルレ Vol. 3』プログラム
	9月	『奥山眞佐子ひとり芝居 樋口一葉の世界2012』プログラム 『恋人たちの神話』プログラム、台本
明治座	9月	『藤あや子坂本冬美特別公演』プログラム
門仲天井ホール	8月	『南瓜』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』平成24年9月号

『舞踊芸術』2012年9月号

『Confetti』2012年OCTOBER Vol. 94、NOVEMBER Vol. 95

『伝統文化新聞』2012年(76号)

『演劇ぶっく』2012年10月号No. 159

〔《特集》表紙のヒト 森山未来／演劇ffフォルティッシモ！／『サイケデリック・ペイン』／『リングダリンダ』／『義経秘伝』／『コクーン歌舞伎 天日坊』／『ふくすけ』〕

『悲劇喜劇』2012年10月号

〔《特集》劇場と記憶 《掲載戯曲》『エゲリア』瀬戸ロ郁／『鎌塚氏、すくい上げる』倉持裕〕

『邦楽の友』平成24年10月号

『ほうおう』2012年11月号

〔《インタビュー》松本幸四郎 《特集》松竹新喜劇通信Vol. 1／新派四季暦 南座十一月公演出演者〕

『ジ・アトレ』2012年9月

『国立演芸場公演ガイド』平成24年10月号

『メセナnote』2012年Autumn 74号〔《特集》ソーシャルビジネスとクリエイティブの力〕

『日本芸術文化振興会ニュース』平成24年10月号

『日本照明家協会雑誌』2012年9月号

〔《インタビュー》石井強司 《特集》平成23年度日本照明家協会協会賞：テレビ部門 文部科学大臣賞・大賞を受賞して 優秀賞を受賞して／舞台部門 審査委員最優秀賞を受賞して 優秀賞を受賞して〕

『日本舞踊』64巻10月号

〔《特集》演目解説 長唄 秋の色種(秋色種)／舞踊写真教室 新内舞踊曲 狐の絵草紙(一)〕

『大向う』平成24年9月号

『ラ・アルプ』2012年10月号

〔《特集》出演経験俳優が語る、あなたにとって『ジーザス』とは？『ジーザス・クライスト＝スーパーstar』／『ライオンキング』大阪公演、いよいよ開幕！東西同時ロングラン、始動。〕

『SePT倶楽部 information』2012年9月号(114号)

『シアターガイド』2012年11月号

〔《特集》「リチャード三世」岡本健一&鳩山仁 中嶋朋子 浦井健治 小田島雄志／「悼む人」向井理／「こんばんは、父さん」佐々木蔵之介&溝端淳平&平幹二郎〕

『テアトロ』2012年10月号

〔《特集》自分史演劇ストーリー 《掲載戯曲》「日本アニメ、夜明け前」竹内一郎／「シベリア～銀波楼という名の娼家」福田善之〕

『ミュージカル』2012年9月-10月号〔《特集》『ディートリッヒ』／『DREAM BOYS』〕

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画雑誌 ■

『アウラ』2012年209号

〔《特集》イマドキ 高校生白書2012/地デジ化でよりパワーアップ!いま独立放送局が面白い!〕

『文化通信ジャーナル』2011年12月号

〔《インタビュー》中島厚(株)松竹マルチプレックスシアターズ代表取締役社長〕

『文化通信ジャーナル』2012年3月号

〔《特集》新BSデジタル放送スタート第2弾 新規BS5チャンネル トップ&キーマンインタビュー〕

『文化通信ジャーナル』2012年8月号〔《インタビュー》井上伸一郎 角川書店代表取締役社長〕

『ドラマ』2012年10月号

〔《特集》本誌通巻400号記念 脚本家アンケート 《掲載シナリオ》『リッチマン、プアウーマン』1・2・3話 安達奈緒子/『ハイスクール歌劇団☆男組』江頭美智留〕

『映画テレビ技術』2012年10月号

〔《特集》映画『アシュラ』はいかにして映像化されたか/映画『希望の国』園子温監督に聞く/国内初!シネマ用立体音響imm sound上陸!/映画『カミハテ商店』美術の世界〕

『映画秘宝』2012年11月号

〔《特集》バック・トゥ・ザ・80's!!/園子温『希望の国』で原発問題を一刀両断!!〕

『衛星劇場プログラムガイド』2012年10月号

『藝術学研究』2012年July 22号

〔《特集》論文:女が書き、女が撮るとき 日本映画史における二人の田中 斉藤綾子〕

『キネマ旬報』2012年9月下旬号

〔《特集》堺雅人のいる現場「鍵泥棒のメソッド」内田けんじと映画つくりのメソッド/「夢売るふたり」/生誕100年。木下恵介監督入門・前篇/日活映画100年の青春〕

『キネマ旬報』2012年10月上旬号

〔《特集》周防正行 原点と行方「終の信託」草刈民代×役所広司/山田五十鈴と出逢うために/生誕100年。木下恵介監督入門・後篇〕

『日経エンタテインメント!』2012年10月号

〔《特集》女子がときめく!男子向け作品になぜハマる?/TIGER&BUNNY/タッキー&翼〕

『ピクトアップ』2012年10月号

〔《特集》『るろうに剣心』佐藤健/堺雅人/香川照之/広末涼子/織田裕二/山田孝之×林遣都/岡田将生〕

『ロケーションジャパン』2012年10月号

〔《特集》織田裕二/踊る“お台場”大捜査線/堺雅人×香川照之/JAPANアニメが地域を救う!〕

『SCREEN』2012年11月号

〔《特集》秋の必見映画&スター情報完全攻略/「バイオハザードV」攻略法&ミラ・ジョヴォヴィッチ来日〕

『シナリオ教室』2012年10月号

〔《インタビュー》大林利江子/宇山佳佑 《掲載シナリオ》『黒の女教師』2・3・4話 吉澤智子・大林利江子・池田奈津子〕

『シネフェックス』2012年No. 26

〔《特集》『アベンジャーズ』/『プロメテウス』/『スノーホワイト』〕

『松竹(社報)』2012年(171号)

第26回松竹大谷図書館所蔵資料展示

「山田洋次監督」展 ～デビュー作『二階の他人』より『霧の旗』まで～

展示期間：2012年9月28日～2012年10月24日

於：松竹大谷図書館閲覧室

2011年に監督生活50年を迎えた、日本映画界の巨匠、山田洋次監督。10月は、山田洋次監督の1961年のデビュー作より数えて6作品を、展示いたします。

山田洋次監督は、昭和29年(1954)に東京大学法学部卒業後、松竹に入社し、昭和36年(1961)に『二階の他人』で監督デビュー。以後『男はつらいよ』シリーズ等、数々の名作を発表します。平成25年(2013)の1月には、小津安二郎監督に捧げた『東京家族』が公開予定です。

なお、山田洋次監督には、1998年より当館の評議員にご就任頂いております。また、京都の南座で特別展「山田洋次の軌跡」が、8月18日から9月23日及び10月6日から10月24日まで開催中です。特別展では山田監督作品の全80作がフィルムで上映されており、スクリーンで観られる貴重な機会です。



展示資料の一部。『二階の他人』のスクラップブックには(右上)、デビュー当時の山田監督の姿が写った新聞記事などが貼りこまれている。

●展示資料作品一覧●

『二階の他人』(1961年公開) スチール、スクラップブック、台本(準備稿)

監督：山田洋次、脚本：野村芳太郎・山田洋次、原作：多岐川恭、主な出演：小坂一也、葵京子
7年間の助監督時代を経ての、30歳でのデビュー作。当時、松竹は「SP」(シスター・ピクチャー)と称した、一種の監督や俳優のテストを兼ねた中篇を製作しており、その1本として作られた56分の作品。若いサラリーマン新婚夫婦が二階を間貸しすることで起こる騒動と人間模様を描いた。原作はサスペンス小説だが、喜劇仕立てのホーム・コメディとなっている。

『下町の太陽』(1963年公開) スチール、台本(準備稿)

監督：山田洋次、脚本：山田洋次・不破三雄・熊谷勲、主な出演：倍賞千恵子、勝呂誉
1962年度レコード大賞新人賞のヒット曲「下町の太陽」の映画化作品。同曲を歌った倍賞千恵子が主演した。監督初の長篇劇映画で、ひとりの思春期の娘の成長が、下町を舞台に描かれている。多くの山田作品に出演している倍賞千恵子との出会いとなった作品。

『馬鹿まるだし』(1964年公開) カラースチール、台本(決定稿)

監督：山田洋次、脚本：加藤泰・山田洋次、原作：藤原審爾、主な出演：ハナ肇、桑野みゆき
ハナ肇と組んだ8作品のうちの第1作で、初めての喜劇といえる作品。山田監督作品を終生担当した撮影監督高羽哲夫との最初の仕事でもある。エピソードを積み重ねていくという構成で脚本が執筆され、以後ほとんどの作品はこの手法で書かれている。ハナ肇が演じた、お人よしだが早とちりな無法者の主人公像は、後の寅さんの原型とされている。

『いいかげん馬鹿』(1964年公開) スチール

監督：山田洋次、脚本：山田洋次・熊谷勲・大嶺俊順、主な出演：ハナ肇、岩下志麻
好評を博した前作を受けて、再びハナ肇と組んで作られた『馬鹿』シリーズ第2作。ハナ肇が演じる、瀬戸内海の島で生まれ育った孤児の主人公が、故郷のために奮闘するも全て空回りになってしまい、結局島を飛び出していくという、ノスタルジーを感じさせる喜劇。

『馬鹿が戦車でやってくる』(1964年公開) スチール、台本(準備稿)

監督：山田洋次、脚本：山田洋次、原案：團伊玖磨、主な出演：ハナ肇、岩下志麻
『馬鹿』シリーズ第3作。少年戦車兵だった男が、村の人々の理不尽な仕打ちに対して怒りを爆発させ、終戦後に密かに隠しておいた戦車に乗って村中大暴れをして去って行く。復讐譚であるが破天荒な喜劇性を持った作品。最後、主人公の乗る戦車の砂浜に残る轍が海の中へ消えており、不思議な余韻を残すラストシーンとなっている。

『霧の旗』(1965年公開) 台本(完成台本)

監督：山田洋次、脚本：橋本忍、原作：松本清張、主な出演：倍賞千恵子、滝沢修
松本清張のミステリー小説の映画化。唯一脚本に携わっていない作品であり、唯一のサスペンス映画でもある。殺人事件に巻き込まれた兄の弁護を断った弁護士への復讐に燃えるヒロインに倍賞千恵子が扮し、『下町の太陽』での明るいイメージから打って変わって、冷酷な演技を見せている。

専門図書館協議会イブニングセミナー

「震災に備えるーソフトとハードから考えるITを用いた図書館の防災」

日時：2012年9月20日 18:00～20:00

会場：日本図書館協会会館2階研修室

講師：岡本真（アカデミック・リソース・ガイド代表取締役・Code 4 Lib JAPAN 事務局長）

参加者：井川繭子

東日本大震災以後、私たちは大規模な災害に対する備えを強く意識せざるを得なくなった。家庭でも職場でもさまざまな取り組みが行われ、そのニュースを耳にすることも多い。

今回は図書館が日頃から備えるべき防災を、ITの点から講義していただいた。

1. クラウドにデータをバックアップしよう

現在では所蔵データを始めとして、図書館の管理はITを使った業務が多くなっている。データのバックアップについても各館で行っていると思うが、大規模な災害が起きたときには、バックアップの場所が、同一の建物や地域では不十分である。また業者に委託する方法もあるが、費用が大きくなってしまい、小規模な図書館では利用しにくい。

そこで利用しやすいものとして、簡易なオンラインストレージサービスがある。これはインターネット上のハードディスクに自分のファイルを保管して利用するもの。一例としてあげられたDropbox（ドロップボックス）は、一定量（2GB）までのデータなら無料でハードディスクを使えるサービスである（それを越えると有料となる）。使用しているパソコンにソフトをインストールしておけば、データを作成・更新すると、米国のサーバーの中にも自動的にデータが保存されるので、インターネット環境があればどこでも保存したデータにアクセスできる。

実際に大震災のときには、東北大学図書館のデジタルアーカイブサーバーが壊れて、復旧するのに何百万もかかったという例も報告されている。業者のバックアップも万全ではないと考えて、自館でも別に対策をとっておくべきであろう。

2. 発信のチャネルを増やしておこう

今時は自館でHPを持っているところが多くなってきたが、災害時にはこうした公式サイトだけでは、情報が行き届かない・更新されないことが多い。そこで、比較的手軽にできる情報発信手段として、Twitter、Facebook、Google+などのサービスを利用する方法がある。現実の災害時には、こうしたメディアの有効性が立証されたことも記憶に新しいところだ。今では国の機関や公共団体などが次々にTwitterやFacebookを始めているが、相手からのアクセスを待つ形であるHPだけでなく、新しく更新すると自動的に情報が相手に配信される利点を生かして、より積極的な情報発信をしようという取り組みであろう。

3. 被災情報を体系的・継続的に発信しよう

そこで大事なのは、日頃から外に対して情報を発信し、こういう図書館があつてこのような活動をしているということを広くアピールしておくことである。2.で紹介された方法は、その時々での情報発信はできても、体系的・持続的な情報発信ができない。そこで、MediaWikiやFlickr（写真の共有サイト）などのサービスを利用する方法がある。ちなみに、震災情報を集約して発信しているsaveMLAK（博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/>）などがこの例に当たる。図書館といえども今までも広報誌やニューズレターなどを発行してきた実績があるが、紙媒体よりコストがかからない点などをみても、小規模な図書館向きといえよう。大震災の経験からいえることは、災害が起きてから立ち上げるのでは遅く、支援情報も広まりにくいので、常日頃から情報を発信して知名度を上げておくと、いざというときにも支援を受けやすいとのことである。自然災害はもとより、小さな図書館にとっては、急な組織改革や財政難を理由に、予算が削られるなどの危機も起こりうることで、こうした人的災害(?)に備える点からも、日頃からの情報発信は必要なことである。

4. 受援力を発揮しよう

この受援力とは震災用語で、支援を受ける側にもそれなりの力がある、ということを表す言葉である。例えば震災の後に、全国から多数の救援物資が届き、またボランティアも多く集まったが、現地では人手が足りずにうまく捌けなかったり、本当に必要としている人に届かなかつたりする問題点が多くみられた。助けを必要としている人がいても、その情報が広まらないために復興が遅れてしまうケースがある一方で、いち早く被災情報を発信して、適切に支援を受けられた例もある。

もし図書館であれば、例えば本がなくなったので送ってほしいと要望を出すことはできるが、だからといって全国から様々な本が大量に送られてきても、仕分ける人員も労働力も限られる現場では、有難いとは思いつつも当惑してしまうだろう。

そこで一例として挙げられたのが、Amazon ほしい物リストを災害支援として活用する方法である。被災者側がアマゾンのサイト上に欲しい本をリストアップしておく、その本を購入することで支援ができ、商品は直接被災者に届くという仕組みである。本に限らずアマゾンで扱っている商品ならすべて購入（指定）可能ということで、実際に現地で不足している物資をこれで調達できた例もある。またこれは寄贈や寄付ではなくあくまでも購入なので、経済活動の活性化も期待できる。このように受援者側も考えて意思表示をすることが大切なのである。

最後に当館が今取り組んでいる **READYFOR?**でのクラウドファンディングによる運営資金募集についても、紹介していただいた。これについては、当初は資金を募る目的で始めたのだが、同時に松竹大谷図書館を広く知ってもらふ活動にもつながったような手応えを感じている。実際にそれで初めて知ったので来てみた、という利用者の方も増えてきている。

セミナーを受講して、今回のクラウドファンディングが終了した後も、松竹大谷図書館として日常の情報発信の方法を検討してみたいと感じた。

ご寄贈いただきました

利用者の東中誠志様から『あした輝く』（1974年）のポスターをご寄贈いただきました。東中様は、ごく最近当館の存在を知ったとの事で、映画についての調査のため、休暇を取ってご来館下さいました。その際、ご自身の貴重なコレクションから、当館で所蔵していませんポスターをご寄贈下さいました。またこの他に、多くの出版社・著者・劇団・団体・大学・個人の方々から、多数の資料をご寄贈いただいております。どうもありがとうございます。

■ 編集後記 ■

十月になり、秋も本番という季節になってきました。現在、東銀座周辺で注目の建物といえば、もちろん、建設真っ只中の第五期歌舞伎座。ガラス張りのビルだけでなく、以前のような桃山風の屋根も出来上がってきています。再開場まであと半年。通勤時に見上げながら、またここで歌舞伎が観られる日が近づいてきていることを実感しています。（あ）

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載） 法人・団体（50音順・敬称略）

- 株式会社衛星劇場
- 株式会社歌舞伎座
- 歌舞伎座サービス株式会社
- 歌舞伎座舞台株式会社
- 松竹株式会社
- 松竹衣裳株式会社
- 松竹映画劇場株式会社
- 株式会社松竹映像センター
- 松竹音楽出版株式会社
- 松竹芸能株式会社
- 株式会社松竹サービスネットワーク
- 株式会社松竹マルチプレックスシアターズ
- 財団法人 昭和池田記念財団

どうもありがとうございます